

第 6 学 年 3 組 道 徳 科 学 習 指 導 案

日 時 令和 3 年 9 月 3 0 日 (木)
対 象 弘前大学教育学部附属小学校 6 年 3 組 3 1 名
授業者 浅 利 善 仁

1 主 題 名 自律的に行動すること【内容項目 A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任】

2 教材名 『鬼の銀蔵』(出典 『新・みんなの道徳 6 年』 学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) 本時でめざす道徳的価値の自覚について

本時で扱う内容項目 A-1 は物事の善悪を的確に判断し、自ら正しいと信じるところから主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することに関するものである。

自律的に行動するとはどういうことだろうか。学習指導要領解説では「自己を高めていくには何物にもとらわれない自由な考えや行動が大切である。自由には自分で自律的に判断し、行動したことによる自己責任が伴う。自分の自由な意思によっておおらかに生きながらも、そこには内から自覚された責任感の支えによって、自らの信じることに従って自律的に判断し、実行するという自律性が伴っていない」とある。ここでの「自らを信じる」ということに関して、過信や自分勝手ではないということも併せて述べられている。

一言で自律的に行動すると言っても、それを実現することは非常に難しいことであると考えられる。正しいこと、望ましいことであると分かっているにもかかわらず、周りの人の行動に影響されたり、ある程度は許されるだろうという状況があったりすれば、自律的に行動することは難しい。また、自分の利害損得も関わってくるだろう。反面、自律的に行動できたときそこには何があるのだろうか。すがすがしさや、偽りのない行動ができたことによる誇りのようなものが生まれるのではないか。また、他の人のために役に立ったとすれば、感謝されることによる喜びも生まれるだろう。人間の弱さについて気付かせながらも、自律的に行動できたときにわき上がってくる感情に共感させ、考えさせていく。

(2) 教材について

情け容赦のない借金の取り立てで、村人から恐れられていた高利貸しの銀蔵は、ある日、カラスに証文を取られ取り立てができなくなる。証文がないことを理由に村人が借金を返さないため、二十両と引き換えに証文を取り返そうとする。しかし、証文が帰ってこないばかりか、二十両まで失い、銀蔵は生活苦に陥る。しばらくすると、村人達は証文がないにもかかわらず借金を返し始める。「貧しいが盗人にはなりたくねえ」「お天道様が見てござる」との村人の言葉に、銀蔵は「そうか、お天道様か」と気付く。

銀蔵は、証文さえあればよしという人物であり、銀蔵は法やきまりの象徴として描かれている。対して、村人は、良心に従って行動する存在として描かれている。その言動にふれることで銀蔵は、内なる規範の存在に気づき、それに従って生きようとしていく。村人の借金返済は、銀蔵への哀れみもあるが、自らの規範意識によるものであることに気付かせていく。良心に従って行動することのよさや、そうしないことによって生じる心のわだかまりについて共感させることで、自分の利益だけでなく、周りの人々の利益も視野に入れながら、自律的に行動しようとする意欲を喚起していく。

(3) 児童について

6 年生の段階は、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まる時期である。一方で、自由を取り違えて、相手や周りのことを考えず自分勝手な振る舞いをしてしまうこともある。また、自立的で責任のある行動をすることの意味やよさが分かりにくい児童もいる。本学級では、内なる規範意識が備わっている児童が多いように思うが、周りと折り合いをつけて生活しようとする意識や他からの目を気にするあまり、自律的に行動することを躊躇している場面も見受けられる。

そこで、人によって左右されることがなく、自ら正しいと信じるところから主体的に行動することの意味を深く考えさせる。特に、価値観の多様な社会を主体的に生きるための基礎を培うことができるようにする。

(4) 指導について

本時では、児童の多様な考えを引き出すために、タブレットを用いて個々の意見を集約していく。色によって大まかな意見の分類を確認し、記述を意図的に取り上げることで話し合いを焦点化していく。

村人は証文の「ある」、「なし」によって他律的なのか、自律的なのか変化していくが、最終的には自律的に判断し、行動している。村人自らが「決める」ために大切にしたいことは何なのかを考えさせることを通して、自律的に行動するために大切さに気付かせていく。また、テーマ（考えること）を終末にも問い、導入時の児童の価値観がどのように変容したかを見取っていく。

4 本時のねらい

証文なしで借金を返済するようになった村人の行動について考えることを通して、内なる規範（良心）に気づき、自律的に行動しようとする道徳的実践意欲を高める。

5 学習指導過程

段階	学習活動	予想される児童の反応	留意点 ※評価
	発問・指示		
導入	1 テーマを意識する お金を拾いました。その後どうしますか。 ④「自分で決める」ときに大切なことは何だろう。	〈届ける〉 ・自分のものではないから。 ・泥棒になるから。 ・誰かにばれて指摘されるのが嫌だから。 ・届けないともやもやすから。 ・罪悪感があるから。 〈届けない〉 ・ばれなければいい。 ・誰も見ていない。 ・自分の得になる。	・具体的な生活場面で自分だったらどのように行動するか、現状の価値観を表出させる。 ・児童の自律的な行動に関わる発言から、テーマにつなげる。
	2 教材を読んで考える ○銀蔵や村人の行動や状況について考える。 証文つづりをなくしてしまった銀蔵はどんなことを考えたでしょう。 村人はこの状況で借金を返さなくなりましたが、今まではどうして返していたのでしょう。 ○借金を返し始めた村人の行動について考える。 証文がないのに、借金を返し始めた村人についてどう思いますか。 ○「お天道様が見てござる」とはどういうことか考える。 お天道様とは何でしょう。 村人は、お天道様が見ているから、どうすべきだと思っているのでしょうか。	・カラスめ、いまいましい。 ・証文つづりがなければ借金を返してもらえない。 ・証文つづりを絶対見つけ出してやる。 ・しょうがなく。 ・取り立てが厳しかったから。 ・証拠としての証文つづりを突きつけられたから。 〈共感できる〉 ・銀蔵の状況が変わった。 ・苦しんでいる人を見過ごせない。 ・返さなければ、盗人になる。 ・借りたものは返すのが当たり前。 ・証文がなくても借りたことは自分がわかっている。 〈共感できない〉 ・証拠（証文）がないのだから、返さない。 ・村人もつらい思いをしてきた。 〈その他〉 ・返すべきだとは思うけど、今までのことを考えると悩む。 ・神様。 ・周りで見ている人。（世間の目） ・自分の心。 ・良心。 ・借りたものは返すべきだ。 ・このまま生活をしていても気分が悪い。 ・嘘をつくことはいけない。 ・自分の心に嘘をつくことはできない。	・教師の範読 ・証文つづりがなくなったことで、取り立てができなくなった銀蔵の状況を押さえる。 ・他律的に行動していた村人の様子を捉えさせる。 ・タブレット使って自分の考えを書かせ、話し合わせる。 ピンク…共感できる 水色…共感できない 黄色…その他 ・借金を返した村人の気持ち、返さなかった村人の気持ちは、と問い返すことで、それぞれの心の内について考えさせる。 ・村人が考える「お天道様」について考えさせることを通して、自律的に判断して行動することについて、多面的に考えさせる。

	3 テーマについて振り返る。 ○「自分で決める」ことについて考える。 自分で決めるときに大切なことはどんな心でしょう。	・自分で判断すること。 ・自分の行動に責任を持つこと。 ・周りの行動は関係なく、自分の心で判断すること。 ・良心に従って行動すること。	・児童の発言に問い返し、自ら判断して行動することの大切さに気付かせる。 *自分なりに、「自分で決める」ことについて考えを深めている。(ノート、発言)
終 末	5 今日の学びを振り返る。 ○教師の説話を聞く。		・正しいと思うこと、良心に従って行動できた経験を語り、道徳的価値についての深化を図る。

6 板書計画

